

(2) 将来に向けた快適な暮らしの確保

＜計画評価＞

基本方針「将来に向けた快適な暮らしの確保」に向け、上下水道施設の維持管理・改築更新を計画的に実施し、上下水道資産を活用した収入確保や支出削減等の経営改革に取り組み、経営の安定化を図りました。

「川や海の水環境が良好に保たれるまちの実現」では、各水再生センターにおいて、処理水質を経済的かつ安定的に維持するため、水質の管理と運転管理の工夫を継続して実施しました。また、効率的な膜分離活性汚泥法（MBR）施設の運転に向け、引き続き金沢大学と共同研究を実施しました。

「上下水道が安定的に機能するまちの実現（施設の維持管理と更新）」では、水道事業において、管路の更新工事を計画どおり実施し、配水支管更新工事においては、業務効率化に向け、簡易DB方式の試行に引き続き取り組みました。

下水道事業においては、アセットマネジメントに基づく調査・点検・改築更新等を計画どおり実施したほか、水再生センター及び下水道管きよの維持管理等にかかる包括的民間委託について、令和5年度からの新たな業務開始に向けて契約締結し、マニュアルの整備などモニタリング体制の強化を図りました。これらの取組により、効率的に施設健全度を保つための取組を推進しました。

「上下水道が安定的に機能するまちの実現（持続的な企業経営）」では、浅香山浄水場跡地の売却公募が取止めとなりましたが、その他資産の利活用や建設改良コストや維持管理コストの削減、不明水削減などの経営改革に取り組みました。スマートフォンアプリ「すいりん」では、利用者の増加に伴うペーパーレス化が進みました。

これら経営改革の取組により上下水道事業合わせて約2.1億円の効果額を計上しましたが、下水道事業においては当初予算の純利益を下回る結果となりました。

「潤いと活力のあるまちの実現」では、鉄砲町地区における再生水送水事業について適切な維持管理を実施し、事業を継続しました。

「地球温暖化対策を推進するまちの実現（環境負荷の低減）」では、水道事業において、大阪広域水道企業団の受水圧を利用した新たな分岐の運用開始に向け管路整備等を進め、配水場内では小水力発電設備を効率的に運用しました。また、水再生センターにおける運転管理の工夫や省エネ機器への更新・運転を実施しました。

これらの取組により、環境負荷の低減に貢献しました。

以上のとおり、令和4年度は「将来に向けた快適な暮らしの確保」に係る事業を計画どおり実施しました。新たな経営戦略においても、経営基盤を強化し、安定した上下水道サービスを維持することで、「安定・持続」と「信頼・サービス」を確保するため取り組みます。

【施策実績】

- (1) 里道・私道の汚水整備（衛生的に暮らせるまちの実現）・・・・・・・・・・・・・・・・P.65
- (2) 川や海の水環境が良好に保たれるまちの実現・・・・・・・・・・・・・・・・P.66
- (3) 上下水道が安定的に機能するまちの実現（施設の維持管理と更新）・・・・・・・・P.67
- (4) 上下水道が安定的に機能するまちの実現（持続的な企業経営）・・・・・・・・P.73
- (5) 潤いと活力のあるまちの実現・・・・・・・・・・・・・・・・P.77
- (6) 地球温暖化対策を推進するまちの実現（環境負荷の低減）・・・・・・・・P.78

施策名		達成状況	今後の方向性
水道 下水道	4) 上下水道が安定的に機能するまちの実現（持続的な企業経営）	B	持続

評価理由	
達成状況	<p>令和4年度に浅香山浄水場跡地の売却公募が取止めとなりましたが、その他の低・未利用資産の利活用や収納率や水洗化率の向上などに取り組み、収入確保につなげました。</p> <p>支出削減では、管材料の見直しによる建設改良コストや維持管理コストの削減、不明水削減などに取り組みました。スマートフォンアプリ「すいりん」では、イベント等を通じた広報活動を行い、利用者拡大によるペーパーレスが進みました。また、金利や物価上昇などの経営環境の変化について検証し、経営戦略の収支見通しに反映しました。</p> <p>令和4年度は特に動力費高騰による影響が大きく、水道事業では0.2億円、下水道事業では3.8億円と、当初予算に見込んでいなかった突発的な費用増が生じました。</p> <p>経営改善の取組により水道事業では1.1億円、下水道事業では1.0億円の効果額を計上できているものの、電力の消費量が大きい下水道事業においては、効果額で動力費の増加額を賄うことができず、当初予算の純利益17.7億円に対し16.8億円となり、予算を下回る結果となりました。</p> <p>また水道事業では、当初予算を超える純利益を確保することができたものの、重点取組である、資産・資源の有効活用のうち、浅香山浄水場跡地売却の計画に遅れが生じています。これら経営全体の状況に鑑み達成状況を「B」としました。</p>
今後の方向性	<p>今後は、新たな経営戦略で定めた収支見通しに基づき、事業の推進や企業債の借入を計画的に行い、引き続き経営改革に取り組むことから、今後の方向性を「持続」としました。</p>

○事業実績

水道 下水道	① 資産・資源の有効活用による収入の確保	重点取組	b		
目標	<ul style="list-style-type: none"> 普通財産や不要施設、未利用用地などの処分や利活用を早期に実施します。また、従来の発想を転換し、新たな収入源の確保をめざします。 上下水道局が管理する資産を整理し、受益者負担の見直しによる収入の確保や維持管理費用の削減を図ります。 局保有資産を広告媒体とし、広告事業収入を確保します。また、官公庁オークションを活用し、不用品を売却することで、収入を確保します。 				
実績	<ul style="list-style-type: none"> 浅香山浄水場跡地の売却に向け公募を行いました。参加申請事業者が無かったことから、公募を取り止めました。今後は取り止めとなった原因を分析し、売却方法やスケジュールの見直しを行います。また、隣接する旧官舎用地についても浄水場跡地と併せた利活用を検討します。 泉北水再生センターの低利用地について、令和5年度から給食センター建設予定地として教育委員会に貸し付ける方向で協議、調整を進めました。 太井配水場用地などの未利用資産について、活用方法を検討している物件として、市ホームページに掲載することによりニーズ調査を行いました。 不要となった公用車を官公庁オークションで売却し、約300万円の収入を確保しました。 上下水道局ホームページのバナー広告や公用車の車体による広告を募集し、約70万円の収入を確保しました。 				
決算額 ※()内は上段のうち繰越額 [単位：千円]					
年度	総事業費	国費・交付金	起債額	工事負担金	一般財源など
R4	10,642	0	0	0	10,642
R3	39,764	0	0	0	39,764